筑波学院大学紀要第１集　195～206ページ　　2006年

＜調査報告＞

# 学部留学生の日本語使用の実態
## ― 質問紙調査とインタビュー調査から明らかになったこと ―

黒野　敦子*

# Report on International Students' Use of Japanese: Based on Investigation Using Questionnaires and Interviews

KURONO Atsuko *

## １．はじめに

日本国内の留学生数は2003年に10万人を突破し、過去最高の人数となった。本学も2002年度から多数の留学生を受け入れるようになり、それに伴って「聴解・会話」、「読解・作文」、「日本事情」などの日本語科目が設けられた。留学生が充実した大学生活を送るうえで十分な日本語能力が必要であることは言うまでもなく、日本語科目担当教官はこれらの授業の中で留学生の日本語能力養成に力を注いでいる。しかしながら、限られた授業時間数の中で教育効果をあげることは容易なことではない。また、上級の日本語能力を持っている学部留学生に対して何を指導するのかという体系的なシラバスも現段階で存在するとは言い難い。これまでの研究では、金久保・亀田（2004）が留学生の学校生活全般について質問紙調査を実施し、留学の動機、日本語、学習環境、生活上の問題点などについて調査結果を報告している。この研究によって留学生の大学生活の全体像が明らかになったものの、日本語については「入学時の日本語のレベル」、「現在の日本語の勉強方法」、「日常会話に問題があるか」の３点に絞られており、留学生が現在どのような日本語使用に困難を感じているかなどの議論にまでは及んでいない。

そこで本稿では、日常生活や大学生活において必要とされる日本語使用について留学生に質問紙調査とインタビュー調査を実施し、留学生がどのような場面で日本語能力の不足や問題を感じているのかについて報告する。またその結果に基づいて、日本語科目での指導内容について再考するとともに、留学生支援の可能性についても考える。

## ２．調査の概要

2004年の11月から12月にかけて、東京家政

＊　国際学部非常勤講師、Tsukuba Gakuin University

学院筑波女子大学[1)]に在籍している留学生60名に対して調査を実施した。留学生を学年別に見ると、１年生が16名、２年生が11名、３年生が25名、４年生が６名、交換留学生が２名である[2)]。また国籍については、中国が37名、韓国が21名、その他が２名であった[3)]。

調査は、それぞれの留学生と個別に約束をして、大学の食堂で実施した。まず最初に質問紙調査に協力してもらい、そのあとでインタビューを行った。質問紙調査では時間制限を設けず、不明な点があれば質問するように指示をした。インタビュー調査は、質問紙調査の回答内容に基づいて筆者が質問をし、留学生が考えを述べるという形式をとった。

今回の調査では、留学生の日本語使用の実態だけでなく、聴解・会話の授業や読解・作文の授業に対する留学生の考えについても尋ねたが、紙幅の都合上、本稿では日本語使用の実態についてのみ報告をする。質問紙調査で使用した項目は、以下の12項目である。

１．日常生活の会話に問題を感じない
２．日本語の発音には自信がある
３．自然な会話表現を使って会話ができる
４．授業で発表をするとき、問題を感じない
５．大学の講義の聞き取りに問題を感じない
６．テレビドラマの聞き取りに問題を感じない
７．テレビのバラエティー番組の聞き取りに問題を感じない
８．テレビのニュース番組の聞き取りに問題を感じない
９．授業中のノートテイキング（ノートをとること）に問題を感じない
10．授業で指定された教科書、本、資料などを読むことに問題を感じない
11．レポートを書くときに問題を感じない
12．日本語でのメールのやりとりに問題を感じない

以上の項目について「強くそう思う場合には５、そう思う場合には４、どちらとも言えない場合には３、あまりそう思わない場合には２、全然思わない場合には１に○をつけてください」と指示をし、答えてもらった。なお、使用したアンケートについては、本稿の巻末資料を参照されたい。

## ３．結果

表１は、１から12までの日本語使用に関して、60名の留学生の回答を平均した値である。

アンケートの項目はすべて、「問題を感じ

**表１　日本語使用に関する回答の平均値**

| | |
|---|---|
| 日常生活の会話に問題を感じない | 3.62 |
| 日本語の発音には自信がある | 3.03 |
| 自然な会話表現を使って会話ができる | 3.18 |
| 授業で発表をするとき、問題を感じない | 2.87 |
| 大学の講義の聞き取りに問題を感じない | 3.35 |
| テレビドラマの聞き取りに問題を感じない | 3.58 |
| テレビのバラエティー番組の聞き取りに問題を感じない | 3.37 |
| テレビのニュース番組の聞き取りに問題を感じない | 3.43 |
| 授業中のノートテイキング（ノートをとること）に問題を感じない | 3.28 |
| 授業で指定された教科書、本、資料などを読むことに問題を感じない | 3.6 |
| レポートを書くときに問題を感じない | 3.05 |
| 日本語でのメールのやりとりに問題を感じない | 3.8 |

ない」、「自信がある」、「会話ができる」と結ばれており、留学生はそれに対して「強くそう思う場合には５、そう思う場合には４、…」と答えることになっている。つまり、数値が高い項目ほど留学生にとっては「問題を感じない」あるいは「自信がある」項目であると言える。表１から、60名の回答の平均値に「４」を超えたものは１つもなく、留学生が自分自身の日本語能力に問題を感じていたり、それほど自信を持っていないことがうかがえる。

それでは、この12の日本語使用の中で、比較的問題を感じていないものは何であろうか。数値の高い順に並べかえたのが次の表２である。

表２から、留学生が最も問題を感じていない日本語使用が「メールのやりとり」であることがわかる。「日常生活の会話」、「授業で指定された教科書、本、資料などを読む」、「テレビドラマの聞き取り」なども比較的値が高い。

一方、平均値が低い項目には「自然な会話表現を使って会話ができる」、「レポートを書く」、「日本語の発音」、「授業で発表する」などが挙げられる。日常生活の会話にあまり困っていないのに、自然な会話表現を使って会話ができないというのはどういうことなのだろうか。また、「レポートを書く」、「授業で発表をする」など大学生活に必要な技能にどのような問題を感じているのだろうか。次節では、これらの平均値の低かった項目をとりあげ、インタビュー調査の結果を参考にしながら論を進めていく。

**表２　日本語使用に関する回答－平均値の高い順－**

| | |
|---|---|
| メールのやりとり | 3.8 |
| 日常生活の会話 | 3.62 |
| 教科書、本、資料などを読む | 3.6 |
| テレビドラマの聞き取り | 3.58 |
| ニュースの聞き取り | 3.43 |
| バラエティー番組の聞き取り | 3.37 |
| 大学の講義の聞き取り | 3.35 |
| 授業中のノートテイキング | 3.28 |
| 自然な会話表現を使う | 3.18 |
| レポートを書く | 3.05 |
| 日本語の発音 | 3.03 |
| 授業で発表をする | 2.87 |

### ３．１　授業で発表をする

「授業で発表をする」という技能は、今回調査した項目の中では最も数値が低く、「2.87」であった。「全く問題を感じない」場合に「５」を選択することを考えると、多くの留学生が何らかの問題を抱えていることが予想される。ここで、この項目に関する回答の分布を図１に示す。

図１から、「授業で発表をするとき、問題を感じない」に対して「強くそう思う」、「そう思う」と回答した留学生は60名中16名（約27%）だったのに対し、「どちらとも言えない」が23名、「あまりそう思わない」が17名、「全然思わない」が４名であった。この結果から、60名中21名（35%）の留学生が何らかの問題を感じており、「どちらとも言えない」と合わせると、44名（約73%）が多かれ少なかれ問題や不安を感じていることがわかった。

また、インタビュー調査からは、「授業で発表をする」ことに関して次のような声が聞

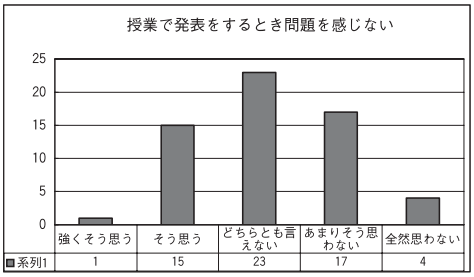


**図１　留学生の回答の分布－授業で発表する**

かれた[4)]。なお、下線は筆者によるものである。

留１：私にとっては、発表…ちょっと緊張もあるし、話すのがちょっと下手なので…すごく…難しいと思います。

黒野：授業の発表も２番ですか。
留２：発表は、…やっぱり、書く時もいろいろ文法的な問題とか。発表する時は、見ないとわかんない。
黒野：そうですよね。
留２：けっこう間違えます。

黒野：ああ。発表はどうですか。
留３：発表は、…発表する時、普通、資料を書いて、それを見て読みます。で、たまに、知らない漢字とか、そういう時がちょっと自信がないんですね。
黒野：そうなんだ。そうすると、発表自体はそんなに嫌じゃないんだけれども、その準備の段階で時々読めない漢字なんかがあった時に、そこで発表する時に、「そこまちがえちゃったりするかな」とか思うわけ？
留３：はい。そうですね。それと、質問受ける時に、自分の頭の中ではこういう考えているのに、そのままはっきり伝えない時がありますので、なんか、ぐるぐる回って伝える時もあります。

留４：日常生活の会話をするときの言葉遣いと、やっぱりみんなの前で発表する時の、自分の…公式の場って言うんですか。公の場と言うんですか。そういう場で使う言葉遣いが、また違ってくるので。で、なんかちょっと…あんまりきちんと言えないかな、と思うんですね。

以上の留学生の発言から、授業での発表を難しく思う理由として、１）発表をするという行為自体に緊張感を覚える、２）発表原稿を用意する段階で、文法や漢字などの問題に遭遇する、３）発表の中で質問をうけたときにうまく答えられない、４）日常会話と発表のときの言葉遣いが違うために自信がない、などが挙げられる。一口に授業での発表に問題を感じると言っても、その理由は準備の段階から発表本番までに及ぶことが明らかになった。

### ３．２　日本語の発音

「日本語の発音には自信がある」に対する回答の平均値は「3.03」で、「授業で発表をする」と同様に留学生の自己評価は低い。ここで、この項目に対する回答の分布を図２に示す。

図２から、留学生の自分の発音に対する評価があまり高くないことがわかる。「強くそう思う」と答えた留学生は一人もおらず、「そう思う」が21名で、全体の35%にとどまった。一方、「どちらとも言えない」と答えた留学生は23名、「あまりそう思わない」が13名、「全然思わない」が３名で、日本語のレベルが上級になっても、発音には自信が持てない様子がうかがえる。

インタビュー調査からは、自分の言っていることを相手に一度で聞き取ってもらえない

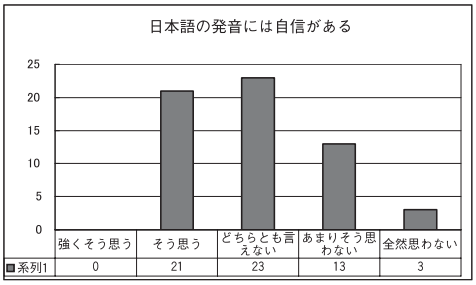


**図２　留学生の回答の分布－日本語の発音には自信がある**

ことや、話をすると外国人だとわかってしまうことがあり、留学生はそれをくやしく思うことがあることもわかった。また、自分の発音が悪いのは、初級のころに発音にあまり注意を向けなかったり、発音を重要視していなかったことや、授業の中で音声教育を受けなかったことが原因だと考えていることも明らかになった。以下留学生の発言を載せる。

留１：それ以外は…、発音ですね。私が発音したら、日本人の相手がそれを聞けない場合があって、もう１回繰り返して発音したり。そんな時があります。

留２：ないんですけど、でも、やっぱり話をすると相手は「日本人じゃないんだ」ってわかるんですね。

留３：やっぱり、発音は、まあ練習すればある程度は良くなると思うんですけど。やっぱり、初級の時にきちんと修めなきゃいけない分野であって、で、ちょっと…私の場合はそうじゃなかったかなと思って、ちょっと…。まだ自信が…。

黒野：なるほどね。だからやっぱり発音は、初級のうちにきちんとやっといた方が、後々楽かなっていうことを感じている、ということね。

留３：私の場合はべつに、発音に関する授業はなかったので、それにあんまり気づかなかったんですね。

黒野：発音はやっぱり困ってる？

留４：今も困ってるし、それは日本語の勉強初めてやった頃は、あまり発音とか気にしないままやったんで、それが原因になって今ごろは、本当に…

黒野：なるほどね。習い始めた頃に、自分はあまり発音に対して気にしなくて。それが今となっては、けっこう発音で苦しんでるというか。

留４：すごく苦しんでます。発音に、すごく苦しいんです。

話しているときに理解してもらえず聞き返されたり、日本語母語話者のような発音で話したいのになかなか理想に近づけないという留学生の気持ちがうかがえる。

### ３．３　レポートを書く

「レポートを書く」という行為は、学部留学生にとって非常に重要である。レポートを提出するという課題は多くの授業で出されるし、４年生になれば卒業論文を書かなければならない。今回の調査で、「レポートを書くときに問題を感じない」に対する回答の平均値は「3.05」と、「授業での発表」、「日本語の発音」に続いて低い。日本語使用の中でも留学生が不安を感じているものの１つと言える。

ここで、留学生の回答の分布を図３に示す。問題を感じていない留学生は60名中18名（30%）であるのに対し、「あまりそう思わない」と答えた学生は16名（約27%）という結果が得られた。「どちらとも言えない」と答えた学生も26名（約43%）おり、レポートを書くことに関して程度の差はあれ問題を感じている学生が多いことがわかる。

では、具体的にどのような問題を感じてい

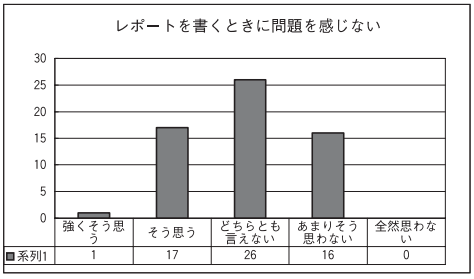


**図３　留学生の回答の分布－レポートを書く**

るのであろうか。インタビュー調査から留学生の発言を紹介する。

黒野：で、レポートを書くときもやっぱり２番ですよね。これは問題がある？
留１：はい。
黒野：どう困ってますか。
留１：内容を調べるのと、書くのも、どういうふうに表すのは難しいです。
黒野：ああ、そうなんだ。どういう表現を使ったらいいのかっていうのが…
留１：困ってます。

黒野：そうなんだ。やっぱり専門用語や硬い表現など、会話表現とは違うので苦労していると。
留２：はい。
黒野：レポートも同じ理由？
留２：そうですね。ある科目により、そういう知識不足とか、調べに行くとか、どういうふうにしぼるとか、どういうふうにまとめるとか苦労しますよね。

黒野：レポートは？　２番ですけど。
留３：んー、レポート書く時…やっぱり、レポート書いて、頭の中は朝鮮語の考えで、日本語に移すんですよ。で、朝鮮語の言葉、そのまま日本語に移すと、文章がおかしくなりますので、いつも１回移して日本語で読んで、おかしいかおかしくないかチェックしてからまた次に行きますので。
黒野：なかなかそこのチェックが難しいってことかな。
留３：はい。
黒野：ああ。
留３：読んでみるとおかしい。おかしいけどどういうふうに書き直せばいいか、わからない。

以上の発言をまとめると、１）言いたいことをどのように表現すればいいのかがわからない、２）レポートのテーマによってはその内容に関して調べるのが困難である、３）内容の絞り方やまとめ方に苦労する、４）まず母語で考え、次に日本語に訳すが、日本語として適切な表現にするのが難しい、などである。レポートが書けるようになるためには、レポートに特有な表現や文体を知っているだけでは十分ではなく、与えられたテーマについて自分で関連する文献を探し、それを読み、レポートの内容を組み立てる能力も要求される。授業では、言語表現の指導にとどまらない総合的なサポートが必要とされる。

### ３．４　自然な会話表現

今回の調査で「会話」については、「日常生活の会話に問題を感じない」と「自然な会話表現を使って会話ができる」の２つの項目を用意した。「日常生活の会話に問題を感じない」に対する回答の平均値は「3.62」と、12種類の日本語使用の中で２番目に数値が高く、留学生が日常生活での会話にはあまり困っていないと解釈できる。

しかしながら、「自然な会話表現を使って会話ができる」については平均値が「3.18」に下がり、日常会話には困らないものの、自然な会話表現が使えているかどうかに関しては自信のない留学生がいることがわかる。

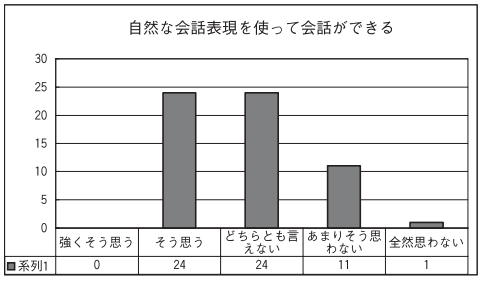


**図４　留学生の回答の分布－自然な会話表現を使っての会話**

図４から、自然な会話表現を使えると思っているのは24名（40%）で、36名（60%）の学生は、十分にできていないと考えていることがわかる。

インタビュー調査からは、自分の話している日本語が自然なのか不自然なのか判断できないため不安だという声が聞かれた。いくつかの発言を以下に紹介する。

留１：はい。授業の問題とか日常生活とかあ、今はあんまりないですけど、今は一番困っているは、自然な日本語を使えないということです。
黒野：ああ。それは、会話の時に？
留１：そうですね。意味は伝える。だけど、私、なんか、ちょっと…硬いの日本語、すごく感じてる。

留２：あと、ここにも書いてあるんですけど、自然な会話が…。聞き取りは問題ないんですけど、伝えるのは伝えるけど、でも自然じゃないって感じが、自分にもするんで。
黒野：そういうのは、例えば、自然じゃないっていうのは、私が聞いてるとけっこう自然に聞こえるんだけど、要するに流行りの言葉がうまく使えないとか、そういうレベルの問題ですか。
留２：そうじゃなくて、…表現の問題。
黒野：表現。
留２：今日本人が使っている表現を、適切な場面で使えない…

以上のインタビューから、言いたいことを伝えることはできるが、自分の話している日本語が硬いと感じたり、もっと適切ないい表現があるはずなのにそれが使えないことに不満を感じている様子がうかがえる。６割の留学生が「自然な会話表現を使って会話ができる」とは思っておらず、上級になってもまだ自分の会話能力に十分満足していないことがわかる。

### ３．５　講義の聞き取りとノートテイキング

講義を聞き、ノートをとることは、授業での発表やレポートを書くことと同様に、大学生活を送るうえで非常に重要である。しかしながら、「大学の講義の聞き取りに問題を感じない」に対する回答の平均値は「3.35」、「授業中のノートテイキング（ノートをとること）に問題を感じない」は「3.28」と、決して値は高くない。

図５、図６を見てみると、講義をきくこともノートをとることも、半分以上の学生が多かれ少なかれ問題を感じているようである。講義をきくこととノートをとることは、密接に関連した作業であるが、具体的にどのような問題を感じているのであろうか。インタ

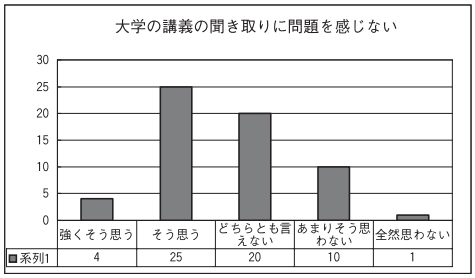


**図５　留学生の回答の分布－大学の講義の聞き取り**

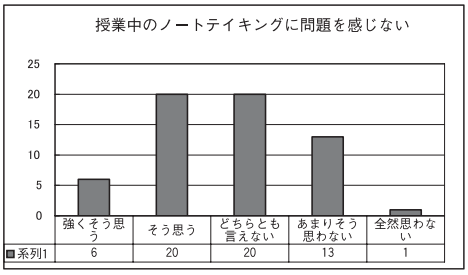


**図６　留学生の回答の分布－授業でノートをとる**

ビュー調査の結果を見てみる。

黒野：他に２番がついているもの、「大学の講義の聞き取りに問題を感じている」ってことですよね。これ。
留１：はい。あります。で、ほとんど専門言葉がいっぱい出てきて。
黒野：ああ。難しい？
留１：はい。メモは取れませんですね。で、先生の授業を聞いてメモしたら、先生の言うのは聞き取れない。
黒野：なるほどね。
留１：なんかわからない単語があったら、この単語を考えて、先生のは全然聞き取れません。

留２：あと、…授業のノート取るは、ちょっと難しい。特に、専門的な言葉、あんまり。特に先生は、書かなくて、わからない。
黒野：ハンドアウトもないのね。こういうプリントもない？
留２：そうです。教科書もないの授業ある。そうですよね。
黒野：黒板には？
留２：あんまり…
黒野：あんまり書かない？
留２：そうです。先生は、ずっと前に、話してる話してる…。すごく難しかった。

黒野：例えば、やっぱり難しいですか。講義の聞き取りなんかは。
留３：個人によって違うと思いますけれども、私は特に漢字が難しいと思いました。
黒野：それは、漢字が難しいっていうのは、先生が黒板に書いてくれた漢字がわかりにくいということ？
留３：それは、書いてわからなかったら辞書で捜したらいいんですけれども、ただ話して、それが聞こえない場合とか…
黒野：なるほどね。聞いてて、音は聞こえるけども、それがどういう漢字で書くのかとか、そういうのがパッと頭に思い浮かばない？
留３：はい。

黒野：で、ノート取るのは、やっぱ難しい？
留４：そうですね。カタカナもあるし。それ、カタカナ、私にとっては一番難しいと思います。
黒野：あ、カタカナが？
留４：はい。
黒野：それは、カタカナ語？
留４：はい。
黒野：カタカナの言葉。
留４：言葉。
黒野：それが、難しいっていうのはどういう意味？
留４：例えば、点点ついてるかどうか、長い音か短い音か。
黒野：なるほどね。でもそれはひらがなでも同じですよね。難しくない？
留４：外来語なので。
黒野：ああ、余計に難しい？
留４：はい。

以上４名のインタビューデータから、講義の聞き取りやノートテイキングに関して、以下のような問題が浮き彫りになった。

１）板書をしない先生の授業は、講義の聞き取りが困難である。
２）専門用語が多い授業では、聞き取りが難しい。
３）先生の言った単語を漢字で書くことができない。
４）外来語の聞き取りが難しい。

5）ノートをとりながら講義を聞くのは困難である。
6）わからない単語について考えたり調べているうちに授業は先に進んでしまい、内容がわからなくなる。

1）から6）まで4名の留学生の発言をまとめたが、他の留学生からも同じような意見や感想が聞かれた。ある留学生は「ちょっとこれは先生によって違うんですけど、留学生をちょっと気にして黒板にちゃんと書いてくれる先生もいるし、そうじゃない先生もいるから」と述べており、授業によってあるいは担当の教官によって講義内容の理解に差が出ることも示唆された。

## 4．まとめ

本研究では、質問紙調査とインタビュー調査を通じて、留学生がどのような日本語使用に問題を感じているのかを報告した。以下に明らかになった点をまとめる。

1）大学生活の中で必要とされる「授業で発表する」、「レポートを書く」、「講義を聞く」、「ノートをとる」ことについて問題を感じている留学生が多い。
2）日常会話には困っていないが、自然な会話表現を使って会話をすることができないと感じている留学生が多い。
3）日本語能力が上級レベルに達しても発音に自信のない留学生が多い。

1）の結果は、大学生活を送る上で重大な問題であり、日本語の授業の中で体系的に指導していかなければならないと考える。授業での発表については、発表の時に使う言い回しや表現を教えるのはもちろんのこと、発表態度やレジュメなどの資料の準備を含め、効果的な良いプレゼンテーションとは何かも考えるような指導が必要であろう。また発表にもレポート書きにも言えることだが、参考資料をさがし、それを理解してまとめるのに苦労しているという声が聞かれた。日本語科目に限らず、授業の中で課題を出す際には、内容に関連した参考図書について詳しい情報を与えるなどの配慮や工夫が必要であると考える。また、講義の聞き取り、ノートテイキングに関しては、専門用語が難しくて聞き取れない、板書やハンドアウトがないために理解が難しいなどの意見があった。授業の中で難しい専門用語や内容の理解に重要な単語がある場合は、板書をしたり、ハンドアウトを配布したりすると、留学生の理解の助けになると思われる。

2）に関しては、日本語の授業の中で、教材として出版されている教科書を使うだけでなく、テレビドラマや映画などの生教材を積極的に活用し、相手や場面を意識した会話指導をしていくことが必要であろう。

3）の発音の問題は、外国語を学ぶ者にとって永遠の課題とも言える。日本語教育の現場では、限られた授業時間の中で音声指導にまで十分に手がまわらないということも多い。文法や文型を教え、語彙を増やしていくことはもちろん重要であるが、それと並行して初級の段階から発音指導に力を入れていく必要があるであろう。また、上級ともなれば日常会話には困らないが、より日本語母語話者の日本語に近づくためにも、プロソディーを中心とした音声指導がさらに重要になってくると思われる。

今回の調査を通じて、留学生の日本語使用の一端を垣間見ることができた。得られた調査結果をもとに指導項目を今一度考え直し、日々の教育実践に還元したいと考えている。

### 注

1）2005年4月から「東京家政学院筑波女子大学・同短期大学部」を改組・改称し、男女共学の

「筑波学院大学」となった。

２）３年生25名のうち、14名が３年生から編入してきた留学生である。残り11名は１年生から在籍している。また、交換留学生とは、筑波女子大学が提携している韓国の大学からの留学生で、在籍期間は１年である。

３）その他の国籍とは、ロシアが１名、イギリス（香港）が１名である。

４）インタビューデータの「留１」というのは「留学生１」の意味であり、数字は別の留学生の発言であることを便宜的に示すものである。

## 付　記

本稿は、平成14-16年度科学研究費補助金基盤研究（C）（２）「日本語コミュニケーション能力の養成に関する教師の実践的知識の研究」（課題番号14580342、研究代表者：福永由佳）による研究成果の一部で、研究成果報告書に執筆したものの一部に加筆・修正を加えたものである。

## 謝　辞

調査に協力してくださった筑波女子大学の留学生のみなさんに心から感謝致します。また、調査することを快諾してくださった同大学金久保紀子先生、亀田千里先生にも心より御礼申し上げます。また、60名の膨大なインタビューデータを文字化してくださった金子さゆりさんにも心より御礼申し上げます。皆様の協力がなければこの研究は存在しませんでした。ここに感謝の意を表します。

### 引用文献

金久保紀子・亀田千里（2004）「筑波女子大学留学生実態調査報告」『東京家政学院筑波女子大学紀要』第８集、pp.95-107

**資料**

## アンケート

このアンケートは、日本語の授業をよりよいものにするために実施するものです。このアンケートの結果が研究や教育以外の目的で使用されることはありませんので、御協力をお願い致します。協力をして下さる方は、記入もれなどがあった場合に連絡をとりたいので、名前、email アドレス（携帯）をお書きください。よろしくお願い致します。

黒野　敦子

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学年＿＿　年生　EMAIL＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
来日した年＿＿＿＿＿年＿＿＿＿月　大学に入学した年＿＿＿＿＿年

**履修した科目（○を書いてください）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 聴解・会話１Ａ | | 聴解・会話２Ａ | |
| 聴解・会話１Ｂ | | 聴解・会話２Ｂ | |
| 読解・作文１Ａ | | 読解・作文２Ａ | |
| 読解・作文１Ｂ | | 読解・作文２Ｂ | |

（１）次の文を読んで、強くそう思う場合には５、そう思う場合には４、どちらとも言えない場合には３、あまりそう思わない場合には２、全然思わない場合には１に○をつけてください。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ・日常生活の会話に問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・日本語の発音には自信がある | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・自然な会話表現を使って会話ができる | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・授業で発表をするとき、問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・大学の講義の聞き取りに問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・テレビドラマの聞き取りに問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・テレビのバラエティー番組の聞き取りに問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・テレビのニュース番組の聞き取りに問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・授業中のノートテイキング（ノートをとること）に問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・授業で指定された教科書、本、資料などを読むことに問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・レポートを書くときに問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・日本語でのメールのやりとりに問題を感じない | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

（２）授業における教室活動について、あなたの考えをお聞きしたいと思います。次の１?21を読んで、強くそう思う場合には５、そう思う場合には４、どちらとも言えない場合には３、あまりそう思わない場合には２、全然思わない場合には１に○をつけてください。

**聴解・会話の授業で、**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| １．発音練習の時間があったほうがいい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ２．文法の復習や解説があったほうがいい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ３．教科書にのっているモデル会話を使って会話練習するのは役に立つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ４．会話を練習するときに、学習者どうしで話すのは練習になる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ５．日本人にインタビューをする活動は、会話力を伸ばすのに役にたつ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ６．ニュースを視聴（しちょう）することは、聴解力（ちょうかいりょく）を伸ばすのに役に立つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ７．映画やドラマを見るのは、会話の聞き取り練習に役に立つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ８．映画やドラマを見るのは、自然な会話表現を学ぶのに役に立つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ９．あるテーマについてレジュメを書いて発表する活動は役に立つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10. 自分でシナリオを書いてドラマを作る活動は、会話力を伸ばすのに役に立つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

**読解・作文の授業で、**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 11. 文法の復習や解説があったほうがいい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12. 語彙（ごい）が増えるような練習があったほうがいい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13. たくさんの量の文章を読んだほうがいい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14. 読解教材として、新聞はいいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15. 読解教材として、小説はいいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16. 読解教材として、専門分野の本はいいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17. 文章を読んで、内容を要約する練習は役に立つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18. レジュメの書き方を勉強したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19. レポートのような長い文章を書きたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20. レポートに特有な表現や文体を勉強したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21. レポートの構成（レポートの最初に何を書くか、次に何を書くかなど）について勉強したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

**ご協力ありがとうございました。**